

<特集「アスペクト」>

## ドイツ語のアスペクト表現データ

成田 節

以下、アンケートの表現に添って、ドイツ語の例文を挙げ、簡単な説明をつける。<sup>1</sup>

(1) ミュラーさんはもう来た。

a. Herr Müller ist schon da. ミュラーさんはもう来ている。

氏-ミュラー<sub>主</sub> いる<sub>現在</sub> すでに ここに<sup>2</sup>

「ミュラーさんはもう来た」を「過去のある時点に来て、今もいる」の意味にとるならばもっとも普通の表現。ist は sein (英: be) の現在形。文末の da 「そこに・ここに」と結びついて「いる」という意味を表す。したがって、文の意味としては「(発話時に)ミュラーさんがすでにここにいる」ということになる。日本語では「～になる」と動的に表すことを、ドイツ語では「～である」と静的に表すということがしばしば指摘されるが、例文 a にもこのことがあてはまる。

b. Herr Müller ist schon gekommen. ミュラーさんはもう来た。

氏-ミュラー<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> すでに 来る<sub>過分</sub>

ist ... gekommen は kommen の現在完了形。文の意味としては「(過去のある時点にすでに)ミュラーさんが来た」ということになる。特定の文脈がなければ通常は「発話時にもいる」と解釈される(=もう来ている)が、Aber er ist gleich wieder weggegangen。「でもすぐにまた立ち去った」などの文を続けることも可能。

c. Herr Müller war schon da. ミュラーさんはもう来 [てい] た。

氏-ミュラー<sub>主</sub> いる<sub>過去</sub> すでに ここに

---

<sup>1</sup> 例文の容認度は Vincenzo Spagnolo さん(東京外国語大学)に判断していただいた。また、例文の意味解釈については藤縄康弘さんから多くの示唆をいただいた。

<sup>2</sup> 本稿で使う略語は以下の通り。主=主格、対=対格、与=与格、定=定冠詞、不定=不定冠詞、現在=直説法現在形、過去=直説法過去形、過分=過去分詞、助(完了)=完了形の助動詞、接続 I = 接続法第 I 式、接続 II = 接続法第 II 式。また、冠詞(類)と名詞、前置詞と冠詞と名詞などの結合はハイフンで示した。

「ミュラーさんはもう来た」を「... けどすぐにまた帰った」のように、「居る状態」が発話時まで継続していないととるならば c のような表現になる。war は sein の過去形。c は a を過去形に書き換えたもの。文の意味としては「(過去のある時点にすでに)ミュラーさんがいた」ことを表す。

d. <sup>??</sup>Herr Müller kam schon. ミュラーさんはもう来た。

氏-ミュラー<sub>主</sub> 来る<sub>過去</sub> すでに

kam は kommen 「来る」の過去形。一般に、過去のことを表すのに話し言葉では現在完了形、書き言葉では過去形を用いるとされているので、d は「(過去のある時点にすでに)ミュラーさんが来た」ことを表すはずだが、インフォーマントによると d は書き言葉としても不自然だということである。schon との相性が悪いのかもしれない。不自然さの原因については(9)b との関連で触れる。

(2) ミュラーさんはもう来ている。

a. Herr Müller ist schon da. (=1a)

b. Herr Müller ist schon gekommen. (=1b)

それぞれ(1)の a および b と同じ表現。

(3) ミュラーさんはまだ来っていない。

a. Herr Müller ist noch nicht da. ミュラーさんはまだ来っていない。

氏-ミュラー<sub>主</sub> いる<sub>現在</sub> まだ ない ここに

(1)a = (2)a の否定表現。noch は「まだ」、nicht は否定の「…ない」。文の意味は「ミュラーさんがここにいるという状況が発話時にはまだ成立していない」ということ。

b. Herr Müller ist noch nicht gekommen. ミュラーさんはまだ来っていない。

氏-ミュラー<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> まだ ない 来る<sub>過去</sub>

(1)b = (2)b の否定表現。ist ... gekommen は kommen の現在完了形。文の意味は「ミュラーさんがここに来たという状況が発話時にはまだ成立していない」ということ。

c. Herr Müller war noch nicht da. ミュラーさんはまだ来ていない。

氏-ミュラー<sub>主</sub> いる<sub>過去</sub> まだ ない ここに

(1)c の否定表現. 文の意味は「ミュラーさんがここにいたという状況が発話時にはまだ成立していない」ということ。

d. <sup>??</sup>Herr Müller kam noch nicht. ミュラーさんはまだ来なかった。

氏-ミュラー<sub>主</sub> 来る<sub>過去</sub> まだ ない

(1)d の否定表現で、「ミュラーさんが来たという状況が発話時にはまだ成立していない」ことを表すはずだが、インフォーマントによると(3)d は(1)d と同様に書き言葉としても不自然だということである。noch nicht との相性が悪いのかもしれない。(1)d 同様、不自然さの原因については(9)b との関連で触れる。

(4) ミュラーさんはまだ来ない。

Herr Müller kommt noch nicht. ミュラーさんはまだ来ない。

氏-ミュラー<sub>主</sub> 来る<sub>現在</sub> まだ ない

完了相(perfective)あるいは限界性(telic)の動詞の現在形は一般に発話時以降に実現する出来事を表す。一方、継続相(imperfective)あるいは非限界性(atelic)の動詞の現在形は一般に発話時に実現している出来事を表す。kommen は前者なので、現在形で肯定ならば「〈来る〉という事態がこれから実現する」、否定ならば「〈来る〉という事態がまだ実現しない」という意味を表す。

(5) ミュラーさんはもう (すぐ) 来る。

a. Herr Müller kommt bald/gleich. ミュラーさんはまもなく/すぐに来る。

氏-ミュラー<sub>主</sub> 来る<sub>現在</sub> まもなく/すぐに

上述のように、kommen の現在形は一般に発話時以降に実現する出来事を表すが、bald 「まもなく」や gleich 「すぐに」などの副詞を用いて、出来事の実現のタイミングを明示することができる。

b. Herr Müller ist bald/gleich da. ミュラーさんはまもなく/すぐに来る。

氏-ミュラー<sub>主</sub> いる<sub>現在</sub> まもなく/すぐに ここに

(1)a に関して記したように、(5)b の ist は動詞自体の意味としては「(発話時に) いる」ことを表すが、この例では bald 「まもなく」や gleich 「すぐに」があるために、「発話時に」という意味が抑えられて、「発話時以降に (来て) いる」という意味になる。

(6) ほら、ミュラーさんが来たよ。

a. Da kommt Herr Müller. ほら、ミュラーさんが来たよ。

あそこ 来る<sub>現在</sub> 氏-ミュラー<sub>主</sub>

文頭の da はある空間に聞き手の注意を向ける働きをする。表現としては「(ほら) あそこ、ミュラーさんが来る」という意味で、人が来るのに気付いた場面での発話には普通はこのように現在形が用いられる。この他にも Entschuldigen Sie bitte, dass ich zu spät komme. 「遅刻してすみません ( < 許して下さい、私が遅すぎて来ることを)」の komme のように、現在形が発話時の直前の出来事を表す用法もある。

b. Da ist Herr Müller. ほら、ミュラーさんが [来て] いる。

あそこ いる<sub>現在</sub> 氏-ミュラー<sub>主</sub>

表現としては「(ほら) あそこにミュラーさんがいる」という意味。たとえばパーティーでミュラーさんが来ていることに突然気付いた時などはこの表現が用いられる。

(7) おととい、ミュラーさんが来たよ。

a. Vorgestern ist Herr Müller gekommen. おととい、ミュラーさんが来た。

—昨日 助(完了)<sub>現在</sub> 氏-ミュラー<sub>主</sub> 来る<sub>過分</sub>

b. Vorgestern kam Herr Müller. おととい、ミュラーさんが来た。

—昨日 来る<sub>過去</sub> 氏-ミュラー<sub>主</sub>

c. Vorgestern war Herr Müller da. おととい、ミュラーさんが来 [てい] た。

—昨日 いる<sub>過去</sub> 氏-ミュラー<sub>主</sub> ここに

話し言葉では a のように現在完了形を使うことが多い。書き言葉では b のように過去形が多い。ただし話し言葉でも c の sein (英: be) や haben (英: have) などは過去形を使うことが多い。

(8) おととい、ミュラーさんは来なかったよ。

a. Vorgestern ist Herr Müller nicht gekommen. おととい、ミュラーさんは来なかった。

－昨日 助(完了)<sub>現在</sub> 氏-ミュラー<sub>主</sub> ない 来る<sub>過分</sub>

b. Vorgestern kam Herr Müller nicht. おととい、ミュラーさんは来なかった。

－昨日 来る<sub>過去</sub> 氏-ミュラー<sub>主</sub> ない

c. Vorgestern war Herr Müller nicht da. おととい、ミュラーさんは来 [てい] なかった。

－昨日 いる<sub>過去</sub> 氏-ミュラー<sub>主</sub> ない ここに

a の ist ... gekommen は kommen の現在完了形，b の kam は kommen の過去形，例文 c の war は sein 「いる」の過去形。話し言葉では現在完了形を使うことが多く，書き言葉では過去形が多い。

(9) 私はあのリンゴをもう食べた。

a. Ich habe den Apfel schon gegessen. 私はそのリンゴをもう食べた。

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> 定-リンゴ<sub>対</sub> もう 食べる<sub>過分</sub>

habe ... gegessen は essen 「食べる」の現在完了形で，通常は「食べたのでもうなくなった」という含みを持つ。

b. Ich aß den Apfel schon. 私はそのリンゴをもう食べ [始め/かけ] た。

私<sub>主</sub> 食べる<sub>過去</sub> 定-リンゴ<sub>対</sub> もう

schon 「もう」があるため，essen 「食べる」を過去形にした文は，「(過去の時点で) もう食べ始めていた/食べかけていた」という意味でなら可能となる。この点で現在完了形とは異なる。以下は推測の域を超えるものではないが，(1)d の<sup>?)</sup>Herr Müller kam schon. 「ミュラーさんはもう来た」や(3)d の<sup>?)</sup>Herr Müller kam noch nicht. 「ミュラーさんはまだ来なかった」が不自然なもの，ある程度の継続を含意する essen 「食べる」と違い，瞬間的に成立する kommen 「来る」だと「(過去の時点で) もう～始めていた/～かけていた」あるいは「まだ～始めていなかった/かけていなかった」という解釈が成立しにくいことに因るのかもしれない。

(10) 私はあのリンゴをまだ食べていない／食べない。

a. Ich habe den Apfel noch nicht gegessen. 私はそのリンゴをまだ食べていない。

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> 定-リンゴ<sub>対</sub> まだ ない 食べる<sub>過分</sub>

「まだ食べていない」は通常、「だからまだある」という現在の状況を含意するので、過去形ではなく a のように現在完了形で表す。上述のように、完了相あるいは限界性の動詞の現在形は一般に発話時以降に実現する出来事を表す。essen 自体は完了相/限界性の動詞とは言えないが、den Apfel essen 「そのリンゴを食べる」となると、当該のリンゴを食べるという行為には終結点があるので、b のように現在形で発話時以降の出来事を表す。

b. Ich esse den Apfel jetzt noch nicht. 私はあのリンゴを今はまだ食べない。

私<sub>主</sub> 食べる<sub>現在</sub> 定-リンゴ<sub>対</sub> 今 まだ ない

(11) あ的那个人は今（ちょうど）そのリンゴを食べています／食べているところです。

a. Herr Müller isst gerade den Apfel. ミュラーさんはちょうどそのリンゴを食べている。

氏-ミュラー<sub>主</sub> 食べる<sub>現在</sub> ちょうど 定-リンゴ<sub>対</sub>

ドイツ語の動詞に英語のような進行形はない。「今～している」という意味を表すには、動詞は現在形のまま、gerade 「ちょうど」などの副詞を添える。現在形と同様に過去形も「～していた」という意味を表せる。

b. Herr Müller aß gerade den Apfel. ミュラーさんはちょうどリンゴを食べていた。

氏-ミュラー<sub>主</sub> 食べる<sub>過去</sub> ちょうど 定-リンゴ<sub>対</sub>

動詞自体には英語の進行形に相当する形式はないが、動詞の不定形（不定詞）を中性名詞化し、前置詞および sein と組み合わせて、「～しているところだ」あるいは「～しつつある」という意味を表すことができる。以下、いくつか例を挙げる。

c. Herr Müller ist gerade beim Lesen. ミュラーさんはちょうど読書中だ。

氏-ミュラー<sub>主</sub> ある<sub>現在</sub> ちょうど ~の際に 読む

〈beim+名詞化不定詞+sein〉で「～しているところだ」（<～する・際に・ある）という意味を表す。beim は前置詞 bei 「～の際に」と冠詞 dem の融合形であり、Lesen

は動詞 *lesen* を中性名詞化したもの。名詞なので語頭が大文字書きになっている。さらに次のように *dabei sein* 「それをしているところだ (<da それ・bei の際に・sein ある)」と、英語の *to* 不定詞句に大よそ相当する *zu* 不定詞句を組合せることもできる。

d. Herr Müller ist gerade dabei, den Koffer zu packen.

氏-ミューラー<sub>主</sub> *be* 現在 ちょうど その際に、定-スーツケース<sub>宾</sub> *to*-詰める  
ミューラーさんはちょうどスーツケースを詰めているところだ。

e. Herr Müller ist gerade am Arbeiten. ミューラーさんはちょうど仕事 중이다.

氏-ミューラー<sub>主</sub> *be* 現在 ちょうど ~に接して 仕事する

〈*am* + 名詞化不定詞 + *sein*〉で「~しているところだ」(<~する・に接して・いる) という意味を表す。 *am* は前置詞 *an* 「~に接して」と定冠詞 *dem* の融合形。この用法はライン地方およびヴェストファーレン地方でのみ見られるとされ、*Rheinische Verlaufsform* (ライン地方の進行形) と呼ばれる。

f. Der Junge ist noch im Wachsen. その少年はまだ成長しつつある。

定-少年<sub>主</sub> *be* 現在 まだ ~の中に 成長する

〈*im* + 名詞化不定詞 + *sein*〉で「~しつつある」(<~する・の中に・ある) という意味を表す。 *im* は前置詞 *in* 「~の中に」と定冠詞 *dem* の融合形。

(12) 窓が開いている。

a. Das Fenster ist geöffnet. 窓が開いている。

定-窓<sub>主</sub> *be* 現在 開ける<sub>過分</sub>

*geöffnet* は他動詞 *öffnen* 「開ける」の過去分詞。他動詞の過去分詞と *sein* の組合せで「変化の結果の状態」を表す。したがって a は「窓が開けられた状態だ」という意味である。この形式は一般に状態受動と呼ばれている。 *sein* を過去形にすると、過去時制の文 b になる。

b. Das Fenster war geöffnet. 窓が開いていた。

定-窓<sub>主</sub> *be* 過去 開ける<sub>過分</sub>

この他に、*offen* 「開いている」という形容詞あるいは *auf* 「開いて」という副詞とコ

プラの組合せもある。コブラの sein を過去形にすると、過去時制の文 d になる。

c. Das Fenster ist offen / auf. 窓が開いている。

定-窓<sub>主</sub> be<sub>現在</sub> 開いている

d. Das Fenster war offen / auf. 窓が開いていた。

定-窓<sub>主</sub> be<sub>過去</sub> 開いている

(13) 私は毎朝新聞を読む/読んでいます。

a. Ich lese jeden Morgen Zeitung. 私は毎朝新聞を読む/読んでいます。

私<sub>主</sub> 読む<sub>現在</sub> 毎-朝<sub>対</sub> 新聞<sub>対</sub>

上述のように、ドイツ語の動詞には進行形がないので、現在形で日本語の「～する」にも「～している」にも対応しうる。「習慣」ということを明示したいときは gewöhnlich 「普通の/習慣的な」という形容詞を副詞的に用いるなどの手段がある。

b. Ich lese gewöhnlich jeden Morgen Zeitung. 私は習慣的に毎朝新聞を読んでいます。

私<sub>主</sub> 読む<sub>現在</sub> 習慣的に 毎-朝<sub>対</sub> 新聞<sub>対</sub>

この他に、pflegen と zu 不定詞で「～する習慣がある」という意味を表す表現もある。ただし pflegen のこの用法は「書きことば的」とされており、インフォーマントによると、d のように die Gewohnheit haben 「習慣を持つ」を使い、習慣の内容は zu 不定詞句で表す方が普通とのことである。

c. Ich pflege jeden Morgen Zeitung zu lesen. 私は毎朝新聞を読む習慣がある。

私<sub>主</sub> 習慣がある<sub>現在</sub> 毎-朝<sub>対</sub> 新聞<sub>対</sub> to-読む

d. Ich habe die Gewohnheit, jeden Morgen Zeitung zu lesen. 私は毎朝新聞を読む習慣がある。

私<sub>主</sub> 持つ<sub>現在</sub> 定-習慣<sub>対</sub> 毎-朝<sub>対</sub> 新聞<sub>対</sub> to-読む

なお、インフォーマントによれば die Gewohnheit haben 「習慣がある」は個性的な習慣を表すのに用いる傾向があるので、「新聞を読む」などよりは、「毎朝一杯トマトジュースを飲む」(jeden Morgen ein Glas Tomatensaft trinken) などの方が自然だとのことである。



(14) あなたは（あなたの）お母さんに似ている。

a. Du bist deiner Mutter ähnlich. あなたはお母さんに似ている。

あなた<sub>主</sub> be<sub>現在</sub> あなたの-母親<sub>与</sub> 似ている

b. Du ähnelst deiner Mutter. あなたはお母さんに似ている。

あなた<sub>主</sub> 似ている<sub>現在</sub> あなたの-母親<sub>与</sub>

「似ている」を表す語としては、ähnlich という形容詞と ähneln という動詞があるが、ähnlichの方が頻度は明らかに高い。どちらも似ている相手を与格で表す。

(15) 私はその頃毎日学校へ通っていた。

a. Ich ging damals jeden Tag zur Schule. 私はその頃毎日学校へ通っていた。

私<sub>主</sub> 行く<sub>過去</sub> そのころ 毎-日<sub>対</sub> へ-学校

英語の used to に対応する形としては(13)cにも挙げた pflegen と zu 不定詞の組合せがあるが、これは書き言葉的であり、使用頻度は高くないようだ。Duden-Oxford Großwörterbuch Englisch-Deutschには used to の用例とその独訳として my mother always used to say ... と meine Mutter pflegte zu sagen ...を挙げているが、これを除く14例すべてが行為を表す動詞そのものを過去形あるいは現在完了形として独訳されている。インフォーマントによると、bは文法的には可能だが、文学的・詩的であり、日常語では使わないとのことである。

b. Ich pflegte damals jeden Tag zur Schule zu gehen.

私<sub>主</sub> 習慣がある<sub>過去</sub> そのころ 毎-日<sub>対</sub> へ-学校 to-行く

(16) 私はベルリンに行ったことがある。

a. Ich war schon mal in Berlin. 私はベルリンに行ったことがある。

私<sub>主</sub> いる<sub>過去</sub> すでに 一度 に-ベルリン

「～に行ったことがある」は、seinを使って「～にいた」と表現する。通常はaのように過去形になるが、bのように現在完了形にすることも可能である。

b. Ich bin schon mal in Berlin gewesen. 私はベルリンに行ったことがある。

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> すでに 一度 に-ベルリン いる<sub>過分</sub>

また c のように, fahren 「行く」を現在完了形で用い, 「～に行った」と表現することも可能である.

c. Ich bin schon mal nach Berlin gefahren. 私はベルリンに行ったことがある.

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> すでに 一度 へ-ベルリン 行く<sub>過分</sub>

(17) やっとバスは 走り出した／走り始めた.

a. Endlich ist der Bus abgefahren. やっとバスが出発した.

やっと 助(完了)<sub>現在</sub> 定-バス<sub>主</sub> 出発する<sub>過分</sub>

辞書で abfahren は「動き出して場所を離れる」(sich in Bewegung setzen und einen Ort verlassen)と記述されている. 類似の意味を持つ分離前綴り(不変化詞)に los がある. los には「ある場所から離れること」と「ある出来事の開始」という意味があるが, losfahren の los は「離れる」ことを表す.

b. Endlich ist der Bus losgefahren. やっとバスは出発した.

やっと 助(完了)<sub>現在</sub> 定-バス<sub>主</sub> 出発する<sub>過分</sub>

(18) きノウ彼女はずっと寝ていた.

a. Gestern hat sie den ganzen Tag geschlafen. きノウ彼女は一日中寝ていた.

昨日 助(完了)<sub>現在</sub> 彼女<sub>主</sub> 定-全-日<sub>対</sub> 眠る<sub>過分</sub>

b. Gestern schlief sie den ganzen Tag. きノウ彼女は一日中寝ていた.

昨日 眠る<sub>過去</sub> 彼女<sub>主</sub> 定-全-日<sub>対</sub>

a は継続相の動詞 schlafen の現在完了形, b は過去形. 「長時間の継続」は動詞ではなく, den ganzen Tag 「一日中」などの副詞成分で表す. なお, 口語では a のように現在完了形を用いるのが普通.

(19) 私はそれをちょっと食べてみた.

a. Ich habe (etwas) von dem Kuchen gegessen. 私はそのケーキを少し食べた.

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> (いづらか) から-定-ケーキ 食べる<sub>過分</sub>

b. Ich habe den Kuchen gegessen. 私はそのケーキを食べた。

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> 定-ケーキ<sub>対</sub> 食べる<sub>過分</sub>

bのように定冠詞の付いた（したがって対象物の輪郭が明確な）対格目的語だと「(その) ケーキをまるごと」という含みを持ち得るが, aのように前置詞 von を用いると「その一部を」という意味になる. etwas「いづらか」はなくても良い. また試行的な表現としては c の probieren「試食・試飲する」や d の abschmecken「味見する」などもある.

c. Ich habe den Wein probiert. 私はそのワインを試飲した。

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> 定-ワイン<sub>対</sub> 試飲する<sub>過分</sub>

d. Ich habe die Soße abgeschmeckt. 私はソースを味見した。

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> 定-ソース<sub>対</sub> 味見する<sub>過分</sub>

(20) あの人(は)はそれ(ら)をみんなに分け与えた。

Der Mann hat das Geld an die Armen verteilt. その男はお金を貧者に分け与えた。

定-男<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> 定-金<sub>対</sub> に-定-貧者<sub>達</sub><sub>対</sub> 分け与える<sub>過分</sub>

verteilen 自体で「分け与える」, すなわち複数回くり返される行為を表すので, 動詞の形態などによって特に多回的なアスペクトを表す必要はない。

(21) さあ, (私たちは) 行くよ!

a. Also, gehen wir los! さあ, 行こう!

さあ 行く<sub>接続</sub> 私たち<sub>主</sub> 出発して

b. Also, lass uns gehen! さあ, 行こう!

さあ させる<sub>命令</sub> 私たち<sub>対</sub> 行く

「誘いかけ」は a のように—en wir あるいは b のように lass uns + 不定詞 という形式を用いる. a の—en は一般に接続法第 I 式の要求話法の一つと説明されている. また, b の lass uns ... は英語の let us ... に相当する. なお, a の文末の los は losgehen という分離動詞の前綴りである. ドイツ語では「誘いかけ」や「命令」に過去形を使うことはないが, 次の c や d のように過去分詞を使うことはある. ただしこれらは特定の状

況で用いられる固定的な表現である。

c. Alle mal hergehört! (教室で教員が生徒に) みんな、聞きなさい!

全員 ちよつと 傾聴する<sub>通分</sub>

d. Alles aufgestanden/hingesetzt! 全員起立/着席!

全員 起立する<sub>通分</sub>/着席する<sub>通分</sub>

(22) 地球は太陽の周りを回っている。

a. Die Erde dreht sich um die Sonne herum.<sup>3</sup> 地球は太陽の周りを回っている。

定-地球<sub>主</sub> 回る<sub>現在</sub> 再代 周り-定-太陽 ぐるりと

「恒常的な真理」の表現には、通常は現在形を用いる。ただし「金言・格言」などではbのように現在完了形が用いられることもある。

b. Ein Unglück ist schnell geschehen. 事故というものは瞬時に起こってしまうものだ。

不定-事故<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> 速く 起こる<sub>通分</sub>

(23) あの木は今にも倒れそうだ。

a. Der Baum droht zu fallen. あの木は今にも倒れそうだ。

定-木<sub>主</sub> おそれがある<sub>現在</sub> to-倒れる

b. Die Brücke droht zusammenzustürzen. 橋が今にも崩れ落ちそうだ。

定-橋<sub>主</sub> おそれがある<sub>現在</sub> to-崩れ落ちる

drohen と zu 不定詞で「今にも～するおそれがある」という意味を表す。なお、bの zusammenzustürzen は分離動詞 zusammenstürzen の zu 不定詞で、zu が前綴り zusammen と stürzen の間に入っている。

(24) (私は) あやうく転ぶところだった。

a. Ich wäre fast gestürzt/hingefallen. 私はあやうく転ぶところだった。

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>接続II</sub> あやうく 転倒する<sub>通分</sub>

---

<sup>3</sup> (22)a の drehen は再帰代名詞 sich と組み合わせさせて「回る」という意味を表す。

b. Ich hätte beinahe einen Unfall verursacht. 私はあやうく事故を起こすところだった。

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>接続Ⅱ</sub> あやうく 不定-事故<sub>対</sub> 引き起こす<sub>過分</sub>

fast 「あやうく」や beinahe 「あやうく」などと共に接続法第Ⅱ式過去を用いて「あやうく～するところだった」という意味を表す。

(25) 明日お客が来るので、ワインを買っておく。

a. Morgen haben wir Besuch. Deshalb kaufe ich heute noch Wein.

明日 もつ<sub>現在</sub> 私達<sub>主</sub> 客<sub>対</sub> だから 買う<sub>現在</sub> 私<sub>主</sub> 今日-の内に ワイン<sub>対</sub>

明日お客が来る。だから今日の内にワインを買う。

b. Ich kaufe für meine Gäste, die morgen kommen, drei Flaschen Wein.

私<sub>主</sub> 買う<sub>現在</sub> ため-私の-客<sub>対</sub>たち。その人達<sub>主</sub> 明日 来る。三-本<sub>対</sub>-ワイン<sub>対</sub>

明日来る客のためにワインを3本買う。

日本語の「～ておく」に相当する表現は存在しない。たとえば a の「明日お客が来る」のような予定を表す文と組み合わせたり、b の「明日来る客のために」のような用途を表す前置詞句と組み合わせることで、行為の意図を間接的に表現することならできると。

(26) (私は) ベルリンに行った時、この鞆を買った。

a. Ich habe die Tasche gekauft, als ich in Berlin war.

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> 定-鞆<sub>対</sub> 買う<sub>過分</sub>、～時 私<sub>主</sub> に-ベルリン いる<sub>過去</sub>

私はベルリンに行った(くいた)時にこの鞆を買った。

b. Ich habe die Tasche gekauft, als ich nach Berlin fuhr/gedfahren bin.

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> 定-鞆<sub>対</sub> 買う<sub>過分</sub>、～時 私<sub>主</sub> へ-ベルリン 行く<sub>過去</sub>/行く<sub>過分</sub>-助(完了)<sub>現在</sub>

私はベルリンに行った時(あるいは行く途中で)にこの鞆を買った。

どちらの文でも主文「私はこの鞆を買った」を普通は現在完了形にする。副文「ベルリンに行った時」は、a のように sein を使い「ベルリンにいた時」とするならば過去形にし、b のように fahren を使い「ベルリンに行った時(あるいは行く途中で)」とするならば過去形または現在完了形になる。

(27) (私は) ベルリンに行く時／行く前に, この鞆を買った.

a. Ich habe die Tasche gekauft, kurz bevor ich nach Berlin fuhr/gedfahren bin.

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> 定-鞆<sub>対</sub> 買う<sub>過分</sub>, 短い ~前 私<sub>主</sub> へ-ベルリン 行く<sub>過去</sub>/行く<sub>過分</sub>-助(完了)<sub>現在</sub>  
私はベルリンに行く直前にこの鞆を買った.

b. Ich habe die Tasche gekauft, bevor ich nach Berlin fuhr/gedfahren bin.

私<sub>主</sub> 助(完了)<sub>現在</sub> 定-鞆<sub>対</sub> 買う<sub>過分</sub>, ~前 私<sub>主</sub> へ-ベルリン 行く<sub>過去</sub>/行く<sub>過分</sub>-助(完了)<sub>現在</sub>  
私はベルリンに行く前にこの鞆を買った.

「ベルリンに行く時に」が「行く途中に」の意味ならば(26)bのような表現が可能になるが, 「行く前に」の意味ならば bevor 「~前に」という従属接続詞を用いる. bevor だけだと「間隔をあけた以前」の意味にもなるので, 「直前に」ということを表すならば a のように kurz を添える.

(28) (私は) 彼が市場でこの鞆を買ったのを知っていた.

a. Ich wusste, dass er diese Tasche auf dem Markt gekauft hat.

私<sub>主</sub> 知っている<sub>過去</sub> ~こと 彼<sub>主</sub> この-鞆<sub>対</sub> で-定-市場 買う<sub>過分</sub>-助(完了)<sub>現在</sub>  
私は彼が市場でこの鞆を買ったのを知っていた.

b. \*Ich wusste, dass er diese Tasche auf dem Markt kaufte.

私<sub>主</sub> 知っている<sub>過去</sub> ~こと 彼<sub>主</sub> この-鞆<sub>対</sub> で-定-市場 買う<sub>過去</sub>  
私は彼が市場でこの鞆を買ったのを知っていた.

c. Ich wusste, dass er diese Tasche auf dem Markt gekauft hatte.

私<sub>主</sub> 知っている<sub>過去</sub> ~こと 彼<sub>主</sub> この-鞆<sub>対</sub> で-定-市場 買う<sub>過分</sub>-助(完了)<sub>過去</sub>  
私は彼が市場でこの鞆を買ってあったのを知っていた.

主文「私は知っていた」はいずれも過去形 (wissen は口語でも現在完了形ではなく過去形で用いることが多い動詞の内の一つ) だが, 副文「彼がこの鞆を市場で買ったこと」は時制によってインフォーマントの判断が異なった. 現在完了形の a は問題なし, 過去形の b はかなり不自然, 過去完了形の c も不自然とのことであった.